名古屋大、大学施設マネジメント研究会を開催

名古屋大学は，十二月四日に、第五回目となる『大学施設マネジメント研究会』を開催し、中部地方を中心とする国公私立大学・官庁・民間企業から百名を超える参加者が出席した。

研究会は、冒頭に施設担当の杉浦理康夫理事の挨拶、文部科学省文教施設企画部の菅野俊也参事官補佐の来賓挨拶に引き続き、早稲田大学文化推進部調査役の尾崎健夫氏による「早稲田大学におけるキャンパス整備について」、株式会社早稲田大学ファシリティマネジメント（早稲田大学ＦＭ）の小寺裕明氏による「早稲田大学における施設管理の状況について」の二題の講演が行われた。尾崎氏の講演では、生徒数五万七千人を抱える都市型キャンパスを中心に早稲田大学のキャンパス整備指針（マスタープラン）についての解説があった。ＦＭ導入ワーキンググループを組織し、現有資産の分析、コスト評価や利用状況を把握しながら、大隈講堂の大規模改修を含めた施設計画を中長期的視点から実施している。また、キャンパス全体の管理運営については、早稲田大学ＦＭにアウトソーシングを委託しており、品質とコストを検討しながら、省エネ活動等を含めた管理活動を行っている。

小寺氏からは、このアウトソーシング業務の詳細について解説があった。早稲田大学ＦＭでは、１４名のスタッフと６５１名の作業員が勤務しており、早稲田大学全体の清掃、設備管理、警備、教室予約、在庫管理、宿泊管理、学内郵便などの業務を実施している。特に、業務内容毎にワークオーダーと呼ぶ手順書を作成し、業務を合理的に評価管理する仕組みを導入している点が特徴である。

第二部のパネルディスカッションでは、名古屋大学施計画推進室の松岡利昌准教授と同室・恒川和久講師をモデレーターに、前述の講師に加え、名古屋大学施設管理部の山口博行部長が演壇に上がり、大学施設マネジメントのあり方について活発な質疑が交わされた。

『大学施設マネジメント研究会』は，施設資産の有効活用を図る国公立および私立大学や，自治体、施設マネジメントサービスを提供する企業による，情報共有と意見交換の場として発足したものであり、今後も継続して施設マネジメントの諸課題について、議論を進めていくこととしている。